

ふるさと歴史シンポジウム「いまよみがえる末松廃寺」

末松廃寺と飛鳥・白鳳の寺院

公益財団法人文化財建造物保存技術協会

審議役 村上 詔 一

1 飛鳥・白鳳時代〈593～709〉とは

推古天皇が飛鳥豊浦宮に即位した推古1年(593)から平城遷都までの時代で、飛鳥時代(593～644)と白鳳時代(645～709)に大きく分けられる。

飛鳥時代は、仏教の伝来と大陸建築の導入がおこなわれ、6C末に我が国初の本格的寺院である飛鳥寺が百済の工人の指導により創建された。さらに、7C初には四天王寺や法隆寺(若草伽藍)など多くの寺院が建立された。

白鳳時代は、645年の大化改新の政治改革により律令制国家が成立。7C後半にはいると遣唐使が頻繁に派遣され、仏教建築に新様式(初唐様式)が大陸から直接導入され、川原寺(662～667)等が創建された。694年には藤原宮に遷都され、本格的な大陸形式の都城が出現し、大官大寺(7C末)・薬師寺(本薬師寺・7C末)が京内の官寺として建立された。

また、飛鳥時代の寺院の創建は大和を中心とする近畿地方に限られたが、白鳳時代になると、中央の文化が地方に広まり、地方でも多くの寺院が建築された。

なお、この時代を奈良時代前期、あとの天平時代(奈良時代ともいう)を奈良時代後期とする場合もある。

2 現存最古の伽藍と建造物

飛鳥時代の建造物は現存しないが、白鳳時代の建造物は法隆寺西院伽藍に金堂・五重塔・廻廊・中門、法起寺に三重塔が現存している。

法隆寺は、聖徳太子により607年(推古天皇15年)に創建された(若草伽藍)。この伽藍は670年(天智9年)に焼失し、その後、位置を少し変えて再建されたのが現在の西院伽藍である。

西院伽藍の中心仏堂である金堂は、胴張りのある太い柱、皿斗付きの大斗、雲形の斗と肘木、卍崩しの高欄、人字形の割束等の形式をもち、現存する天平時代の建物の内でも特に古い様式をもつ薬師寺東塔(天平2年〈730〉)と比べるとより古式であり、飛鳥時代の様式が残されていると考えている。五重塔なども同様である。

なお、薬師寺東塔は三手先斗栱が初期的で、肘木に舌と呼ばれる法隆寺に似た突起をもつなど他の天平建築に比べ古い要素が多い。これは、薬師寺が天武9年(680・奈良前期)に藤原京に創建された伽藍の姿を平城京にそっくりうつして創建したために、東塔は実年代は下がっても前時代の白鳳様式で建築されたものと考えられている。

3 伽藍配置の変遷

飛鳥時代は、飛鳥寺（6C末）のように塔の北と東西の3方に金堂を置く伽藍（高句麗の清岩里廢寺・5C初にその例がある）が最初にみられるが、四天王寺や若草伽藍（7C初）のように塔と金堂を前後に並べる伽藍（百濟の軍守里廢寺・6C前期に類例がある）が一般的になる。

白鳳時代になると、唐から直接新様式が入り、川原寺のように金堂の前面に塔と小金堂が並ぶなど、左右対称を破る伽藍が多い。法隆寺や法起寺では、塔と金堂が左右に並ぶ。藤原京の薬師寺では、再び左右対称に戻り、塔が金堂の前面に2基並ぶことになった。

天平時代になると、一般的に廻廊が金堂の前庭だけを取り囲んで金堂両脇にとりつき、塔が廻廊の外に出るようになる。

4 発掘遺構からみた末松廢寺

今回の発掘調査の成果によって末松廢寺は、南を伽藍の正面と想定すると、塔の西に金堂が近接して並び、法起寺と同じ伽藍配置の形式を持つ白鳳時代（7世紀後半）の古代寺院であることが判明した。

創建伽藍の特徴をあげると、①塔の規模が非常に大きく、白鳳時代の塔としては中央の官の大寺を特例としてその規模は例を見ない。天平時代（8世紀）になると地方の国分寺にその規模の事例が多い。②塔に比して金堂はそれほど大きくないが、飛鳥・白鳳時代の一般的な規模を持つ。③塔と金堂間の距離が短く、近接して建つ。そのほか、塔と金堂を取り囲む廻廊にかわる土塀の存在も明らかとされたが、南門、中門、講堂、僧坊といった伽藍の主要な建物は確認できなかった。

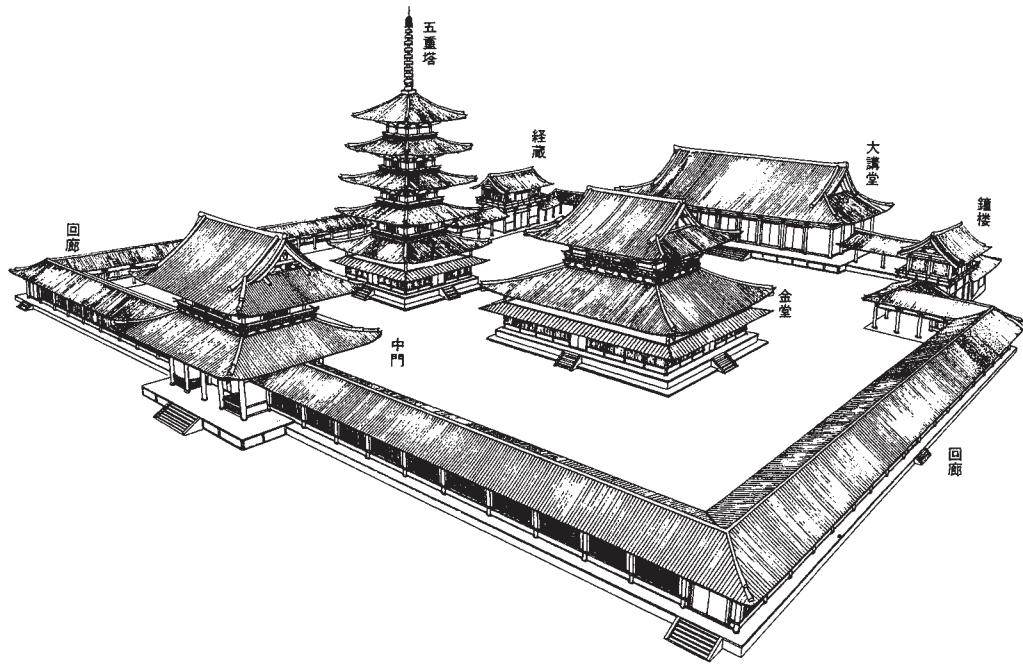
（1）創建期の建物と伽藍

① 塔（SB1）

塔は、心礎の据え付け穴や4カ所に残存していた四天柱と側柱礎石据え付けの根石から、方3間で一辺長10.8mの平面規模を持ち、各柱間が3.6m等間であることが確定された。しかし、基壇については遺構の破壊が著しかったため明らかにすることが出来なかった。建築年代は、7世紀後半頃で、9世紀末までには廢絶していたと考えられた。

心礎は、基壇上に据えられていたものと考えられる。我が国の古代寺院の塔心礎の据え付け状況を見てみると、飛鳥寺（6世紀末）、四天王寺（7世紀初）、法隆寺（7世紀後半）では地中深く据えられている（地下式）が、川原寺（7世紀中）ではしだいに浅くなり（半地下式）、8世紀にはいと基壇上に置かれる（地上式）ようになる。現在確認されている地上式心礎で古いものは、法隆寺若草伽藍（7世紀初）などであり、7世紀後半の末松廢寺の心礎が地上式であるのも古い部類に属するものと考えられる。

塔の平面規模について、代表的な古代寺院の発掘成果等によりまとめたのが、下表である（平面規模の寸法は、「飛鳥・奈良時代寺院の主要堂塔」宮本長二郎 昭和54年 株式会社集英堂によった）。



法隆寺西院伽藍

時代	寺院	創建年代	平面規模： 一辺長(各柱間寸法)・尺	備考
	末松廃寺	7世紀後半	36 (12・12・12)	
飛鳥 593~ 644	飛鳥寺 四天王寺 若草伽藍 山田寺	6世紀末 7世紀初 7世紀初 7世紀中	22 (7・8・7)	基壇一辺：34 基壇一辺：39 基壇一辺：45 基壇一辺長：43
白鳳 (奈良時代前期) 645~709	法隆寺 川原寺 大官大寺 本薬師寺	7世紀後半 7世紀後半 7世紀末 7世紀末	18 (5.25・7.5・5.25) 20 (6.67・6.67・6.67) 50 (10・10・10・10・10) 24 (8・8・8)	五重塔・裳階付 九重塔
天平 (奈良時代後期) 710~793	薬師寺 興福寺 元興寺 東大寺 陸奥国分寺 相模国分寺 能登国分寺 若狭国分寺 美濃国分寺 伊豆国分寺 讃岐国分寺 豊後国分寺	8世紀前半 8世紀前半 8世紀前半 8世紀後半 8世紀後半 8世紀後半 8世紀後半 8世紀後半 8世紀後半 8世紀後半 8世紀後半	23.9 (8・7.9・8) 30 (9.7・10.6・9.7) 33 (10.7・11.6・10.7) 55 (17・21・17) 33 (11・11・11) 36 (12・12・12) 15 (5・5・5) 27 (9・9・9) 36 (12・12・12) 36 (12・12・12) 33 (11・11・11) 36 (12・12・12)	三重塔・裳階付 七重塔

古代寺院の塔の平面は、大官大寺九重塔が5間である他はすべて3間で、一辺長は最大級のものが東大寺七重塔の55尺や大官大寺九重塔の50尺である。これらの塔を除けば白鳳時代の五重塔の一辺長は20尺前後で、天平時代になると南都七大寺の五重塔で30尺前後の規模のものが見られるようになる。更に諸国国分寺は30尺を越えるものが多くなり、相模・美濃・伊豆・豊後・下野・上野国分寺の塔では36尺（基壇一辺長は60尺を越える）となる。各国分寺には東大寺にならって七重塔が建てられたといわれており、初重平面の大きさから考えると七重塔であったとしても差し支えないであろう。末松廃寺の塔も平面規模は方36尺であり、国分寺級の七重塔と考えることも出来よう。

② 金 堂 (SB2)

塔とともに中心伽藍を構成する金堂は、基壇規模が推測できただけで、平面については破壊が著しかったため確定するにいたらなかった。基壇規模は、わずかに残る基壇土や雨落溝の痕跡から、東西幅は約19.8m、南北幅約18.4mをはかることが出来る。金堂の創建は、塔と同じ7世紀後半頃で、8世紀初め頃には廃絶していたと考えられた。

末松廃寺の基壇幅を飛鳥～天平時代の金堂と比較すると、飛鳥・白鳳時代の基壇規模と類似している。この時代の、金堂の建物は桁行5間、梁間4間で、ほぼ正方形に近い平面であったことが特徴としてあげられる。また、廻廊内に独立して建つものが大部分であり、そのために重層の建物であったと考えられる。

天平時代になると、大安寺や興福寺、唐招提寺などでは金堂両脇に廻廊がとりつき、正面の柱間数が7間以上となり、規模が著しく大規模となる。また、東西幅と南北幅の比率が1.6：1と横長のものとなり、正面性を強調した意匠となっている。薬師寺や興福寺など裳階が付いたものが多いのも特徴である。地方の国分寺金堂も、7間堂が多くなる。

末松廃寺の金堂も、法隆寺金堂上成基壇規模とよくにており、桁行5間、梁間4間の東西棟の建物であったと考えても良い。

時 代	寺 院	東西幅(m)	南北幅(m)	東西幅／南北幅	備 考
	末松廃寺	19.8	18.4	1.076	
飛 鳥 593～ 644	飛鳥寺	21.2	17.6	1.20	中金堂 五間堂
	四天王寺	22.0	19.5	1.125	
	若草伽藍	21.6	18.5	1.16	三間堂
	山田寺				
白 鳳 (奈良時代 前期) 645～ 709	法隆寺	20.7	17.4	1.19	上成基壇・五間堂 下成基壇
		22.3	19.0	1.17	
	川原寺	23.6	19.4	1.28	中金堂・五間堂 七間堂・裳階付
	大官大寺	54.6	30.1	1.81	
天 平 (奈良時代 後期) 710～ 793	薬師寺	29.4	18.3	1.61	七間堂・裳階付 中金堂・七間堂・裳階付
	興福寺	40.3	27.1	1.49	
	唐招提寺	35.2	21.8	1.61	七間堂

東西・南北幅については、「飛鳥・奈良時代寺院の主要堂塔」宮本長二郎 昭和54年 株式会社集英堂によった。

③ 土 堀 (SA1～3)

古代寺院は、通常、塔と金堂を廻廊でとりかこみ、その正面中央に中門を開いている。飛鳥・白鳳時代の廻廊は飛鳥寺、山田寺、川原寺、法隆寺などのように単廊となるが、天平時代になると平城京内の諸大寺では複廊となる。地方寺院は、陸奥国分寺、信濃国分寺などでは複廊となるが一般には単廊が多い。

末松廃寺では、廻廊に替わる土堀が検出された。土堀は、伽藍の南面と西面で確認され、それぞれ基壇幅（または基底幅）2mをはかる。廻廊となると基壇幅は6mを越えることになり、土堀とみて差し支えないであろう。東面については、想定位置に掘立柱穴が2箇所検出され南北に並ぶため、この部分は土堀ではなく掘立柱堀と考えられた。

なお、武蔵国分寺では中門から発した掘立柱堀が金堂、講堂、僧坊を取り囲み、相模国分寺では金堂、塔を取り囲む廻廊は、北・南面が単廊、東面が築地堀であったことが確認されている。

④ 伽藍の変遷

(1) 創建時の末松廃寺

伽藍配置は、南を正面とすると、西に塔、東に金堂を並立させた法起寺と同じ伽藍配置になる。法起寺の伽藍配置は、法隆寺の伽藍配置の塔と金堂を逆にしたもので、7世紀後半の伽藍配置の一形式をとる。

末松廃寺では、金堂と塔が並立して建っていたとすると、金堂に比して塔が大きすぎ、また、その隣棟間隔も大変狭くなっている。また、先にも述べたように金堂は7世紀後半の特徴をもつものに対し、塔は8世紀に類例の多い規模があることから考えると、塔は計画はあったものの、一時期遅れた8世紀前半に建て始められ、瓦の出土がみられないことから、心礎や礎石を据えた段階で建築を中止したものとも考えられるが定かではない。

塔と金堂の中心伽藍は土堀で囲われることが判明したが、その正面中央に開かれるであろう中門は検出できなかった。また中心伽藍の背後に配される講堂や僧坊、前面に位置する南門は発見できなかった。

(2) 天平時代の末松廃寺

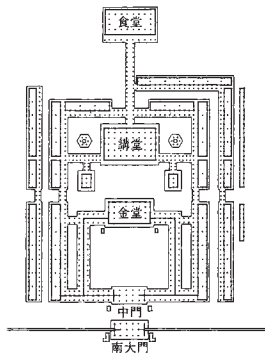
8世紀初め頃に金堂が廃絶した後、金堂跡には規模を縮小し、方位を北で東に約11度振った建物（第2次金堂、SB2B）が建設され、その北方に掘立柱建物（SB3）更にその北方に掘立柱建物（SB6）が建てられ、それらの一郭が、掘立柱堀（SA4）及びこれと折れ曲がって繋がる掘立柱堀（SA6）で囲われていたものと想定され、わずかに寺院としての法灯をつないでいたのかもしれない。掘立柱建物（SB6）廃絶後、掘立柱堀（SA4と6）がそれぞれ掘立柱堀（SA5と7）に建て替えられている。

(3) 平安時代の末松廃寺

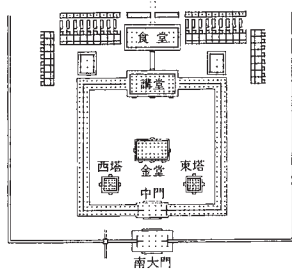
掘立柱建物（SB3）と掘立柱堀（SA5、7）が廃絶後、9世紀初め頃までに、掘立柱建物（SB4と5）があり、また塔跡心礎周辺から瓦塔片（9世紀前半）が出土していることから、わずかに寺院としてのかたちをもっていたのかも知れない。

10世紀終わりから11世紀前半頃の遺構として、鍛冶遺構（SK1）、土拵（SK2、3）、溝（SD1）があげられるが、この時期にも確かではないが寺院としての機能が繋がっている可能性がある。

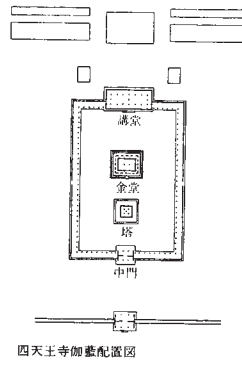
また、11世紀中頃以降の遺構として、塔上層遺構（SX1）がある。これは、塔の廃絶後、わずかに残されていた心礎の覆屋的なものであったとも考えられる。SX2～4の墳墓もこのころのもので、そのほかに溝状の畝間遺構（SX5）がある。



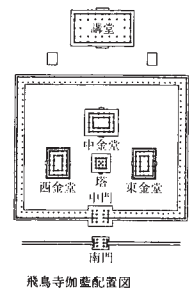
大安寺主要部伽藍配置図
東塔・西塔は伽藍南方東西に離れて建つ



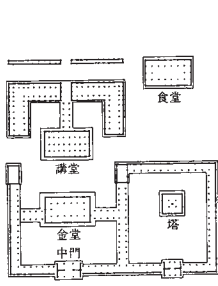
薬師寺伽藍配置図



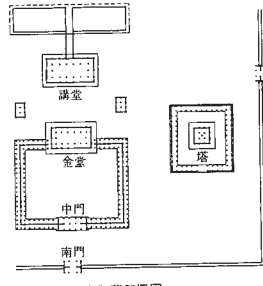
四天王寺伽藍配置図



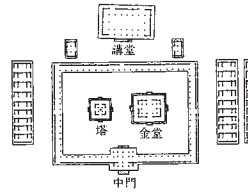
飛鳥寺伽藍配置図



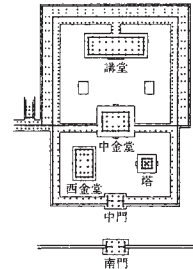
甲可寺伽藍配置図



陸奥国分寺伽藍配置図



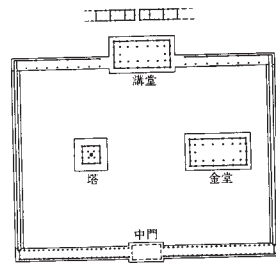
法隆寺復原伽藍配置図



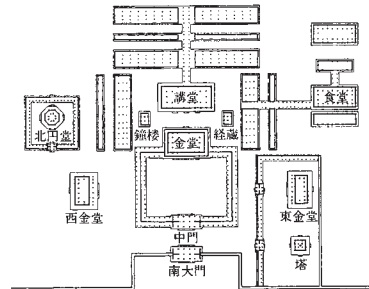
川原寺伽藍配置図



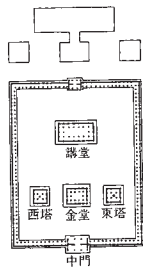
下野国分寺伽藍配置図



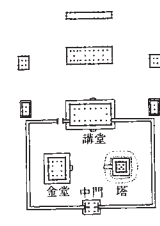
相模国分寺伽藍配置図



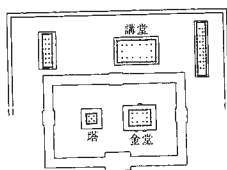
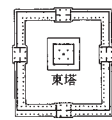
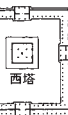
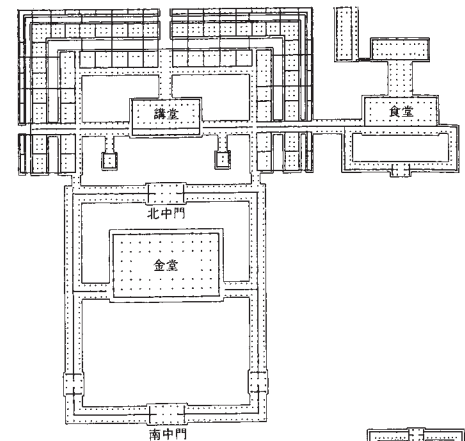
興福寺伽藍配置図



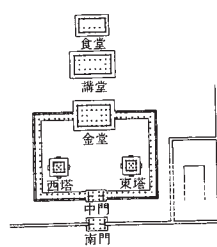
新治興寺伽藍配置図



多賀城廃寺伽藍配置図



伊丹廃寺伽藍配置図



百濟廃寺伽藍配置図



東大寺伽藍配置図

古代寺院の伽藍配置

白鳳期の末松廃寺（上：右）
 天平期の末松廃寺（下：右）
 平安前期の末松廃寺（下：左）

